2018年8月　第46号

市立室蘭総合病院　広報誌

くじらんネット

病 院 の 理 念

おもいやりの心がかよう病院

病院の基本方針

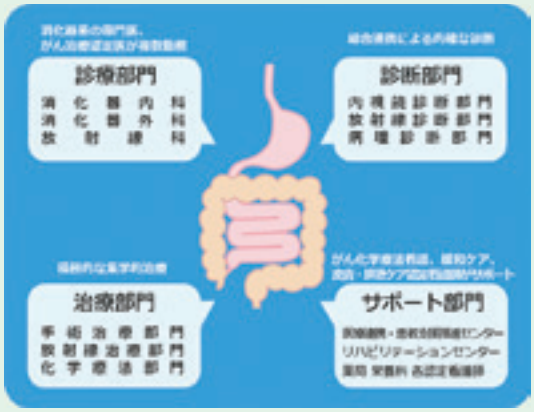
・信頼される医療を持続的に提供します。
・自治体病院としての役割と責任を担います。
・経営の健全化と効率化に努めます。

消化器病センターが開設されました

市立室蘭総合病院
消化器内科部長　清水（しみず）　晴夫（はるお）

当院７番目のセンターとなる消化器病センターが、本年２月に開設されました。センターといっても建物を新築したわけではなく、図のように診療部門、診断部門、治療部門、サポート部門が連携し質の高いチーム医療を提供することが目的です。

消化器病センター外来は消化器内科外来、消化器外科外来、IBD専門外来で構成されています。IBDとは潰瘍性大腸炎やクローン病など近年増加傾向にある炎症性腸疾患のことで、札幌厚生病院IBDセンターの専門医が月に３回の外来を担当しています。また４月からがん薬物療法専門医が外来化学療法室の責任者に着任し、治療部門の充実に取り組んでいます。この消化器病センター外来は医療機関（主にこの地域の個人病院）からの紹介患者さんを対象とした完全予約外来で、これまでと同様に当院地域連携室で予約を受け付けています。この度のセンター開設に伴い地域連携室では市民の皆様向けの電話対応も新たに開始しました。対象となるのは検診やドックで消化器系の異常を指摘された方です。例えば採血で貧血や肝障害を指摘された方、エコーで胆石を指摘された方、バリウム検査で胃潰瘍を疑われた方など、待ち時間のない予約診療が可能です。職場検診などで“要精密検査”と書かれた書類を受けとった方は是非、地域連携室に電話をかけてみてください。



当院の理念は“おもいやりの心がかよう病院”です。一人でも多く皆様のお役に立てるよう、スタッフ一同これまで以上に診療の充実に取り組んでいきます。また今後は市民の皆様を対象とした勉強会を開くなど、広報活動にも力を入れていく予定です。今後とも市立病院消化器病センターをよろしくお願いいたします。

シリーズ 健康講座

第35回

《 脳神経外科 》

脳卒中を軽くすませるために
～市民公開講座より～

脳神経外科　部長　大山（おおやま）　浩史（ひろし）

去る5月26日に市立室蘭総合病院にて、脳卒中に関する市民公開講座を開催させていただきました。たくさんの方に来場していただき、ありがとうございました。皆さんの脳卒中に対する関心の大きさを改めて感じるとともに、私たちの役割を考えると身の引き締まる思いです。

公開講座の内容を一部紹介させていただきます。脳卒中治療をうまく行うためには、図1のように8つのDが必要だと言われています。最初の「発見・通報」は皆さんに行っていただかなければなりません。最近は救急車の適正利用について言われておりますが、どのような症状で119に通報したらよいのでしょうか。図2のように突然起きた片側の手足の麻痺・しびれ、ろれつがまわらない、言葉が出ない、他人の言うことが理解できない等の症状があげられます。もっと簡便にしたのが図3です。ACT FASTといって、この項目に1つでも該当したら脳卒中の可能性が高くなりますので、119に通報してください。

脳卒中、特に脳血管が詰まって脳が壊死する病気である脳梗塞は最近、治療の進歩に目覚ましいものがあります。2005年から認可されたt-PA静注療法やこの2～3年で新たな機器が登場した血栓回収療法で、治療が行われれば脳梗塞を発症した半数の方が自立した生活を行えるめどが出てきました。脳卒中治療は、壊死した脳を治すことはできません。壊死に陥ろうとしているところを助ける治療です。そのため、発症したらすぐに治療を開始しなければなりません。皆さんが早く病気に気づき、早く119に通報していただくことが必要です。皆さんも一緒に脳卒中の後遺症を軽くするよう頑張っていきましょう。

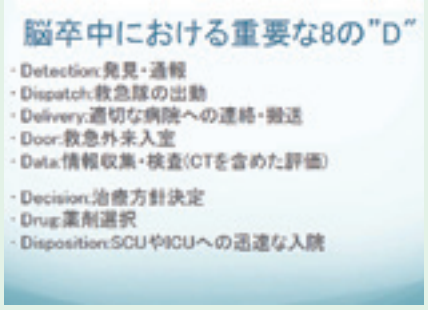


図1

図2

No!梗塞.net（http://no-kosoku.net/）に掲載の「脳卒中シール（公益社団法人日本脳卒中協会監修・田辺三菱製薬株式会社提供）」より

図3

福岡市消防局ホームページ（http://119.city.fukuoka.lg.jp/prevent/zero）に掲載の「脳卒中予防のためのPDF（福岡市消防局・公益社団法人日本脳卒中協会福岡県支部作成）」より

診療放射線技師の仕事

◆ 放射線科 ◆

放射線科技師長　森岡　政史（もりおか　まさし）

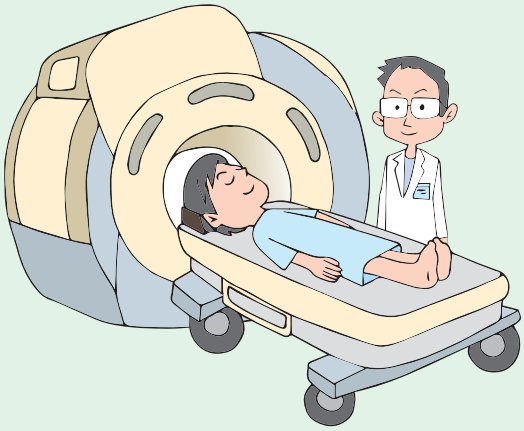
診療放射線技師の仕事には、放射線治療医が作成した治療プランにそって正確に患者さんに放射線をあてる治療部門と、撮影などを行う検査部門があります。ここでは検査部門について紹介させていただきます。

放射線科で行っている検査は胸部や腰部などのX線撮影、体の横断面を撮影するCT検査、血管の状態を見たり治療したりするためX線を通しにくい造影剤という薬剤を血管内に入れて行う血管造影、骨の強度を調べる骨密度測定、特定の部位に集まる放射性物質を体内に入れ体の機能を調べる核医学検査、また放射線は使用せず強い磁気で体内の様子を画像にするMRI等、多岐にわたります。医師はこれらの検査から患者さんの症状にあわせて最適なものを選び、診療に役立てています。

近年医療機器の進歩は目覚ましいものがあります。それは放射線機器も同様で、CT検査ひとつとっても全身を撮影するために一度にできず何度かにわけて撮影していたものが数秒間の息止め一回ですむようになりました。また、得られる画像もさまざまな使い方が出来るようになり、一度の検査で得られる情報が飛躍的に増えました。

放射線機器の多くが照射する線量を増やすと画質は向上しますが、同時に患者さんの被ばくも増えてしまいます。検査で使う放射線の量は健康に影響するものではないですがより少ない事が望ましく、私たちは線量と画質のバランスを考え、低線量で診療に必要な多くの情報を提供できる安全で有効な検査を行うよう努めてまいります。

CT、MRIなどは寝台にマットを敷いているため多少柔らかくなっていますが、X線撮影のものは天板がアクリル製で固く臥位(寝た状態)になると痛く感じる事があります。そのような時はできる限り対応させていただきますので、お気軽に担当技師に声をかけてください。



部門紹介

患者サポート室

平成30年4月に開設された新しい部署です。
窓口では患者さんやご家族が安心して医療を受けられるように様々なことにお応えしています。
例えば

- 外来受診時や入院中にわからないこと、困ったこと、聞きたいこと
- 退院後に不安があること
- 病気や症状でわからないこと
- 誰に聞いていいかわからないこと
- 意見、要望　など

ご相談には直接窓口にご来室、または市立室蘭総合病院へお電話を下さい。

《ご来室の場合》
市立室蘭総合病院新患受付隣
患者サポート窓口
《電話でのお問い合わせ》
☎0143-25-3111（代表電話）

検診のお知らせ

「くじらん検診」のお知らせ

6月より「くじらん検診」として6コースの検診を新設しました。料金は各コース12,960円(税込)です。1日ドックより費用が安く、検査時間も短縮できますので、日常生活が忙しい方や気になるところがある方は気軽に受診していただき、健康管理に役立ててください。

【各コースの主な内容と実施日】

1. **肺ドック**(胸部CTと喀痰細胞診)……**火曜日**
2. **肝ドック**
   (腹部エコーとB型C型肝炎ウイルスの有無等)…**火・木曜日**
3. **肝膵ドック**(腹部エコーとMRI等) ……**火・木曜日**
4. **メタボ予防**
   (CTによる内臓脂肪測定と血管年齢測定等)…**火・木曜日**
5. **レディースA**
   (乳腺エコーとマンモグラフィー、骨密度)… **木曜日**
6. **レディースB**(子宮エコーと細胞診、骨密度)
   ……**水・木曜日**

休日における乳がん検診のお知らせ

実施日 平成30年10月28日(日)
受診人数枠 40人(完全予約制)
検診内容と料金

- マンモグラフィー検査(40歳以上)
  :4,500円(税込)
- エコー検査(20～39歳)　:3,500円(税込)
- マンモグラフィーとエコー検査併用
  (40歳以上):8,000円(税込)

※マンモグラフィー検査は無料クーポンや助成制度が利用可能です。
※マンモグラフィーとエコー検査併用は通常平日時は10,000円
(女性技師が対応いたします)
※ジャパン・マンモグラフィー・サンデー(J・M・Sプログラム)に登録

●新任医師のご紹介●

6月に着任しました

皮膚科 医長
大久保 絢香（おおくぼ あやか）医師

6月に着任しました

眼科 医長
髙橋 明裕（たかはし あきひろ）医師

7月に着任しました

眼科 主任医長
佐藤 圭悟（さとう けいご）医師

市立室蘭総合病院
広報委員会

〒051-8512
室蘭市山手町3丁目8番1号
事務局総務課
TEL (0143) 25-3111
FAX (0143) 22-6867
http://www.city.muroran.lg.jp/main/org8400/